

独立型社会福祉士の実践におけるセルフ・スーパービジョンの意義 —エコシステム構想による支援ツールの試行にむけて—

○ 関西福祉科学大学 御前 由美子 (07258)

安井 理夫 (関西福祉科学大学・04944)、小柴住 まゆ子 (椋山女学園大学・06307)

西内 章 (高知県立大学・03704)、伊藤 佳代子 (別府大学短期大学部・05334)

溝渕 淳 (広島文教女子大学・04505)、長澤 真由子 (広島国際大学・04935)

キーワード：独立型社会福祉士、高度専門職、セルフ・スーパービジョン

1. 研究目的

現在、独立型社会福祉士名簿の条件である認定社会福祉士の登録や更新には、集合研修方式と個別スーパービジョンの継続的な実施が必須とされている。しかし、独立型社会福祉士の研修受講により登録ができた2013年3月までに登録を行っている独立型社会福祉士も多く、また、時間的、経済的理由から研修には参加しづらいという声も聞かれている。さらに、独立型社会福祉士には施設のように行政からの第三者評価を義務付けられているわけでもない。このため、振り返りや他者による評価を個人的な努力と責任に任せている状況である。このようなことから、本報告では、独立型社会福祉士の高度専門性による質の保証をめざしたスーパービジョン方法の構築にむけ、独立型社会福祉士の実態をふまえたスーパービジョンの形態とその意義について述べることを目的としている。

なお、本報告は、科研費（基盤C）「独立型社会福祉士の特性と現状にもとづくより効果的なスーパービジョン方法の構築」（平成26～29年度）の研究成果の一部としたい。

2. 研究の視点および方法

社会福祉士が独立開業する理由や理念、形態、活動地域は様々であり、活動内容においても多岐にわたる。このため、視点としては、独立型社会福祉士の実態に即した、かつ、独立型社会福祉士の実践特性としてのジェネラルなソーシャルワークを可能にするということが必要であり、これには、独立型社会福祉士の実践に特化したスーパービジョン方法を構築することが必要となる。

また、方法としては、文献や先行調査、あるいはインタビュー調査の内容をとおして、まず、継続的なスーパービジョンの実施を困難にしている要因を探り、次に、独立型社会福祉士にとってのスーパービジョンに必要な条件についての整理を行う。そして、独立型社会福祉士にとってどのようなスーパービジョンが有効なのかということ考察する。

3. 倫理的配慮

本報告における引用・参考文献等については、著作権保護にもとづき、研究目的以外に使用しないことを誓約するとともに、日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守し、先行研究を引用・参照した場合にはその存在を明示する。また、聞き取りの内容については、研

究目的以外に使用しないことを対象者に口頭で説明したうえで同意書への署名を得るとともに、人物が特定されないように配慮を行っている。

4. 研究結果

独立型社会福祉士の現状から、独立型社会福祉士の実践に特化したスーパービジョンには、以下のような条件が必要である。

①場所を選ばず、どこでも実施ができること

地域に根ざした活動を行うために独立開業した社会福祉士は増加しており、活動は一層、地域に密着したものとなっている。しかし、4割強の活動地域が人口10万人未満であり、この内の1割以上が5万人未満であるため、都市部での研修に参加することが困難な場合もある。

②時間を選ばず、いつでも実施ができること

多くの人が業務を代わってもらえないという課題を抱えている。これは、単独開業が最も多いことに加え、成年後見や個人との契約による活動では利用者との信頼関係に影響を及ぼす可能性のあることに起因していると考えられる。

③費用の負担が少ないこと

半数以上の年収が200万円未満であり、このうち3割以上は年収100万円未満である。研修会への参加費用や研修会場までの交通、宿泊費は、年収の低い独立型社会福祉士にとって負担となる。

④経営と実践のバランスからみた評価も可能であること

独立開業するに至った理由には、組織制限のない活動、地域貢献、利用者の権利擁護のためなどといったそれぞれの思いがある。このため、実践面や経営面のみの評価ではなく、経営と実践のバランスからみた評価が必要となる。しかし、この理想のバランスについては、多岐にわたる活動を行う独立型社会福祉士本人にのみが知るところである。

以上のようなことから、独立型社会福祉士にとってスーパーバイザーとスーパーバイジーという関係でのスーパービジョンの実施は非常に困難な状況であるため、独立型社会福祉士が行うスーパービジョンとしては、セルフ・スーパービジョンが最も有効である可能性が示唆されている。

5. 考察と今後の展望

独立型社会福祉士のスーパービジョンとして、自己の実践を自ら振り返るセルフ・スーパービジョンが必要であると考えられたが、一方で、独立開業した者同士だからこそ分かり合えることもあるピア・スーパービジョンを実施することで、教育的、支持的機能も補えるのではないかと考えている。このようなことから、現在は、独立型社会福祉士のスーパービジョン支援ツールの開発をもとに、独立型社会福祉士によるセルフ・スーパービジョンの実証研究を行っているところである。今後は、実証研究を積み重ねることを通して独立型社会福祉士のスーパービジョン方法を構築していきたいと考えている。